

ダイバーシティ委員会 IFM  
「アンコンシャスバイアスとその解消に向けて」参加者による意見交換

岩崎昌子

2025/9/17 12:30 - 13:20

会場：SK204 出席者： ~40 名（お弁当は 40 個用意し 31 個配布）

1. ダイバーシティ委員会の紹介、IFM 開催の趣旨についての説明（斉藤委員長）
2. 議論の頭出し（岩崎委員）
3. 参加者による意見交換

大学院生からシニアまで、幅広い年齢層の男性、女性の方々に御参加頂いた。  
終始活発な議論が行われ、出席者間で情報共有が行われた。

[ 議論・提案内容 ]

- 各自が無意識のバイアスを「自覚する、知る」ことがスタートだと思われる。  
そのために、男女参画協会が提供しているチェックシートが有効だと思われる  
--> ダイバーシティ委員会から、または、物理学会から、  
会員にむけて、チェックシートの周知や意義を、呼びかけてほしい
- 中学・高校での教育が、大きな影響を及ぼすと思われる  
--> 物理学会の連携会員の中学校・高校の先生方に、呼びかけてほしい
- 保護者の考えも、大きな影響を及ぼすと思われ  
--> 理系の親であっても、子供に対して、理系進路選択に対する  
バイアスがかかる可能性もある
- 数値目標を設定することも大切ではあるが、  
各自の「選択する自由」を保証することが、大事な目標だと思われる  
--> 物理をやりたい、と希望する学生が、希望通りに進学できるような  
環境整備、意識改革が必要だと思われる
- 国内での状況の報告や、  
海外での例（ポーランドでは、男女比がほぼ 1:1 など）が、多数紹介された

- ダイバーシティ委員会をはじめ、物理学会の各種委員会での男女比についても議論があった
  - > 学会での比率で構成する方が自然ではないか、という意見があったが、その一方で、学会での構成比率で委員会を構成すると、マイノリティの声が届きにくい状況が改善されない、という意見もあった
  - > 男性、女性、どちらについても、極端な偏りが無い、適切な委員構成が望ましい、という意見があげられた

